

第1回 神戸市総合交通計画検討委員会 議事要旨（案）

- 日 時：平成24年8月7日（火）15:00～17:00
- 場 所：神戸市役所1号館14階大会議室
- 出席者：東京工業大学大学院理工学研究科 教授 朝倉 康夫
 京都大学大学院 工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット 特定教授 土井 勉
 神戸大学大学院経営学研究科 教授 水谷 文俊
 関西学院大学総合政策学部 教授 角野 幸博
 神戸電鉄株式会社 鉄道事業本部 副本部長 兼 運輸部長 畑 栄一
 西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 企画課 課長代理 山本 直樹
 阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 都市交通計画部 部長 庄 健介
 阪神電気鉄道株式会社 都市交通事業本部 運輸部 課長 河野 克司
 神戸市交通局 経営企画調整課 課長 土井 佳典
 公益社団法人 兵庫県バス協会 専務理事 中澤 秀明
 社団法人 兵庫県タクシー協会 専務理事 清水 信生
 神戸市自治会連絡協議会 会長 岩佐 光一朗
 神戸市婦人団体協議会 会長 玉田 はる代
 国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課長 吉澤 勇一郎
 国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長 加納 陽之助

□ 議事要旨：

(1) 計画に示すべき内容や表現について

- ・都市計画マスタープランで示されている内容と、今回の議論がどうリンクするかクリアにした方が分かりやすいと思う。
- ・神戸市がこれから目指す都市像を交通政策の中で考え、メリハリのある政策を作り上げて、どのように投資を行っていくかということを、市民の皆さんにきちんとメッセージとして伝えていくことが必要。
- ・目的に『バランス良く組み合わせられた交通環境をつくる』とあるが、市民が参加しやすいような、できるだけ神戸らしい言葉を考えてみてはどうかと思う。
- ・『対象とする交通の区分』は少し理解が難しいかもしれないので、最終的に議論した結果をまとめる視点で示した方がわかりやすいかもしれない。

(2) 分析にあたっての持つべき視点

- ・交通手段分担率に関する分析データが非常に面白いのだが、できれば定性的に要因を分析していただければと思う。徒歩の代表交通手段が多いが、どういう人がどういうところを歩いているかということについて他都市との関係で何かわかることがあったら示したらどうかと思う。
- ・10数年後を想定するとイノベーション等が起こる中で、交通手段も今の状態と違った形の形態のものが出てくる可能性があり、どんな交通でどのようなモードが新しく出るかといった可能性まで考えないと、計画を立てることはできないのではないか。
- ・高齢化、あるいは都心の地価低下が進むと、都心部への移り住む人はたくさん出てくると思わ

れ、その受け皿が、既成市街地の中でどの辺りにどれくらい、あるいはどういう住宅の形態で出てきそうなのか見ておいた方が良い。

- ・西神工業団地、北区の方のアウトレットモール等は、消費地であると同時に就業地になるが、都心に人口を流出させない食い止める要素が辺々部に今後どれくらい出てくるのか、また、今ある物が今後潰れるかもしれないのではないかとといった予測も必要ではないか。

(3) 方向性や施策の検討にあたって持つべき視点

- ・若い人達の可処分所得が昔に比べると減ったことが、若い人が出歩くことを減少させているのなら、もっと出歩きやすい仕組みを別に考えていかないといけない。
- ・社会を活性化に導くために、若い人達にたくさん活動してもらえるよう、社会に対する投資として、公共交通の料金を下げていくような仕組みを考えていくことも必要ではないかと思う。
- ・都心の回遊性を上げていくために、交通手段の結節性や情報提供等を行うことも重要であるが、料金抵抗を下げていく仕組みを考えていくことが大事である。
- ・高齢者で仕方なく自動車を使われている方は、バスや鉄道が上手く機能すれば、そちらに転換する可能性があるのではないかと思う。
- ・10年20年先を考えると、縮退していかなければならない集落も出てくるかもしれず、そうなる前に人々が自然に交通の便が良いところに集まるようなメッセージを出したり、そういったところの利便性を高めていくような仕組みを作らないといけない。
- ・辺々部の既成市街地の中心部が拠点になるのか、ニュータウンのセンター地区が拠点となり再編されていくのか非常に気になっており、おそらくいくつかの拠点となるところに周辺の農村地域から人口が移動するなり、誘導していかないといけないと思うが、ニュータウンと田園地域の関係性を見て、どう拠点到誘導すべきか考えていかなければならない。
- ・拠点や核として、何が残って何が潰れるのか、そういった整理がマスタープランにされているのであれば、それを見ながら、今後、人がどのように動くのかという戦略を作っていくという議論をしてみたいと思う。
- ・今のままでは現在の公共交通が、平成37年まで残っているとは思えず、存続させるための施策として、鉄道を中心として人が動くようなものを作っていくと、ただ乗ってくださいます人は乗らないと思う。
- ・既成市街地では、東西の移動は便利であるが南北の交通が非常に不便であり、兵庫区や長田区での高齢化や都心居住の増加を踏まえて、もう少しきめ細かい交通の施策が必要。
- ・灘区では市バスのダイヤや路線に関して毎年議論になっているが、利用者が少ないと希望が叶わない状況である。バス路線について、地域に密着してコンパクトに様々な路線があるのが、一番良い形ではないかと思う。
- ・業務交通がすごく減っているが、将来どう持続可能な都市にするのか、都市間競争でどう勝ち抜くかということに関わることで、神戸市全体をどういう活動の場にするか検討が必要。
- ・駅から戸建て住宅までのバス路線を維持できるか疑問であり、将来戸建てのところに若い方が住むといったような循環がないと無理ではないかと思う。
- ・今ある鉄道、道路等のインフラをどう活用して循環型の持続可能なまちにしていくのかを考える必要があり、現状の課題に対処するだけの検討では、先々で同じ課題に直面することになる

と思う。

- 交通事業者として、全体のモビリティが減少していく中で、採算性は考慮しないといけないが、神戸市全体としてどのような形で市民の足を維持していくかという観点も重要と考えている。そのバランスも勘案しながら、バス、鉄道以外も含めて全体でどうしていったら交通の利便性が上がっていくか、都市の魅力向上等の公共交通で出かけていくような施策も含めて議論をしていただけるとありがたい。
- 市民の方がいかに上手く使ってくれるか、交通システムのあり方を考えることが重要。

以上